

## 8 NPO・NGOなどの社会活動を志向する学生についての考察

劉 璿舒

### はじめに

近年、自分のキャリアアップや企業などへの関心が強い若者がまだ主流であるが、現代社会が抱えるさまざまな課題や問題に対して、積極的に関わろうという想いを持つ若者も増えていると言われる。NPO・NGOなどの組織はまさにこのような人たちの集まりだろう。

NPO・NGOなどの社会活動を希望する学生には何が影響しているだろうか。また彼らは卒業後主流の会社志向（卒業後は会社のために働きたい）の学生とはどのような違いがあるのかということ、ここで質問紙調査のデータを基に分析していく。

このレポートは主に4部で構成されている。家庭的背景、学生生活から見られる個性と大学授業という三つの角度から社会活動に希望する学生について分析していく。その後、特に社会活動を志向する学生と会社志向の学生との違いも分析を通じて明らかにしていく。

### 8.1 家庭的背景の影響

まず、経済力に豊かな家庭から育てられた人は自身の生活以外、社会問題を考える経済的な余裕がある。ゆえに社会活動の志向が高くなると考えられる。

ここで18歳時の家庭経済状態と卒業後の社会活動志向のクロス集計をとってみる。「卒業後にやってみたいこと：NPO・NGO等の社会活動」は「卒業後の社会活動志向」を測るための指標とする。

表 1 18歳当時の家の経済状況と卒業後の社会活動志向のクロス表

		卒業後の社会活動志向		
		ある	なし	合計
18歳当時の家の経済状態	豊か	38 90.5%	4 9.5%	42 100.0%
	やや豊か	101 82.8%	21 17.2%	122 100.0%
	ふつう	128 83.7%	25 16.3%	153 100.0%
	やや貧しい	23 82.1%	5 17.9%	28 100.0%
	貧しい	6 60.0%	4 40.0%	10 100.0%
	合計	296 83.4%	59 16.6%	355 100.0%

p=.236

以上のクロス表から、経済状態が豊かな家からの学生があまり社会活動に関心を持っていないことが分かる。さらに、全体的には家の経済状態と社会活動志向ははっきりと関連しているわけではない。

次に、家庭の文化資本は学生の社会活動志向に影響するかについて、文化資本が豊富であればあるほど、学生の社会活動志向は高いという仮説を立てた。

原始データを基に分析すると家庭の文化資本の影響ははっきり見えないので、「50冊以下」と「50～200冊」のカテゴリーを1つにまとめた。

表 2 18歳当時の家の本の冊数と卒業後の社会活動志向のクロス表

		卒業後の社会活動志向		合計
		ある	なし	
18歳当時の家の本の冊数	200冊以下	245 85.4%	42 14.6%	287 100.0%
	200冊以上	51 73.9%	18 26.1%	69 100.0%
合計		296 83.1%	60 16.9%	356 100.0%

p=.023

そこで、18歳時家の本の冊数が200冊以上の家庭出身の学生は、そうでない学生に比べると社会活動志向が高いことが分かる。家庭背景の要素の中には、経済力より豊かな文化資本が学生の社会活動意識に積極的な影響を与える。

## 8.2 学生生活から見られる趣味など個性の影響

学生生活におけるサークルや活動の選択から、学生の趣味や個性などを推測ことができる。まずは、ボランティア活動の参加状況から社会活動志向の学生の大学時代における意志と行動の一致性を検証する。

表 3 学生生活：ボランティア活動と卒業後の社会活動志向のクロス表

		卒業後の社会活動志向		合計
		ある	なし	
学生生活：ボラ ンティア活動	よくした	30 41.1%	43 58.9%	73 100.0%
	ときどきした	9 15.5%	49 84.5%	58 100.0%
	あまりしなかった	11 13.3%	72 86.7%	83 100.0%
	しなかった	10 7.2%	129 92.8%	139 100.0%
合計		60 17.0%	293 83.0%	353 100.0%

p=.00

表 3 から、大学生時代にボランティア活動をするほど、卒業後に社会活動を志向する傾向にあることがわかる。

次に、外国に興味を抱いていたかどうかは、世界への好奇心、あるいは自分の日常生活以外のことへ関心を示していると考えられる。そこで旺盛な好奇心と社会活動の志向の関連を確認しよう。以下の表は、海外旅行の頻度と社会活動志向のクロス表を示したものである。

表 4 学生生活：海外旅行へいくと卒業後の社会活動志向のクロス表

		卒業後の社会活動志向		合計
		ある	なし	
学生生活：海外 旅行へいく	よくした	24 28.6%	60 71.4%	84 100.0%
	ときどきした	16 13.9%	99 86.1%	115 100.0%
	あまりしなかった	12 17.6%	56 82.4%	68 100.0%
	しなかった	9 10.3%	78 89.7%	87 100.0%
合計		61 17.2%	293 82.8%	354 100.0%

p=.01

分析の結果、学生時代に海外旅行によく行っていた者ほど社会活動志向が強いとは考えることができる。すなわち、より多い好奇心を持っている人には社会活動の志向が強い。

学生が学生生活における美術館や博物館に通った頻度は、学生自身の感受性を説明することができる。美術館や博物館に頻繁に通うのは、感受性が豊かなことだと考えられる。そこで次に、感受性を示している美術館や博物館に通うことと社会活動意志の関連を確認しよう。

表 5 学生生活：美術館・博物館へいくと卒業後の社会活動志向のクロス表

		卒業後の社会活動志向		合計
		ある	なし	
学生生活：美術館・博物館へいく	よくした	9 15.3%	50 84.7%	59 100.0%
	ときどきした	34 24.3%	106 75.7%	140 100.0%
	あまりしなかった	13 14.3%	78 85.7%	91 100.0%
	しなかった	5 7.8%	59 92.2%	64 100.0%
合計		61 17.2%	293 82.8%	354 100.0%

p=.02

この分析の結果、学生時代に美術館や博物館によく行っていた者ほど社会活動意向が強いとは考えることができる。

### 8.3 大学の授業からの影響

調査票には、授業を通じて「考えや意見を他人に伝える」能力、「物事を多面的に考える」の能力、「外国語のスキル」、「異文化理解」の能力が向上したかどうかを問うた4つの項目がある。これらの項目と卒業後の社会活動志向と関連があると考えられる。

表 6 授業を通じた能力向上:異文化理解と卒業後の社会活動志向のクロス表

		卒業後の社会活動志向		合計
		ある	なし	
授業を通じた能力向上: 異文化理解	向上した	31 25.6%	90 74.4%	121 100.0%
	どちらかといえば向上した	19 12.3%	136 87.7%	155 100.0%
	変わらない	11 15.3%	61 84.7%	72 100.0%
	低下した	0 .0%	5 100.0%	5 100.0%
合計		61 17.3%	292 82.7%	353 100.0%

p=.02

表 7 授業を通じた能力向上:意見を他人に伝えると卒業後の社会活動志向のクロス表

		卒業後の社会活動志向		合計
		ある	なし	
授業を通じた能力向上: 考えや意見を他人に伝える	向上した	19 17.1%	92 82.9%	111 100.0%
	どちらかといえば向上した	33 16.8%	163 83.2%	196 100.0%
	変わらない	9 20.9%	34 79.1%	43 100.0%
	低下した	0 .0%	3 100.0%	3 100.0%
合計		61 17.3%	292 82.7%	353 100.0%

p=.79

表 8 授業を通じた能力向上:物事を多面的に考えると卒業後の社会活動志向のクロス表

	卒業後の社会活動志向		合計
	ある	なし	
授業を通じた能力向上:物事を多面的に考える	28 20.3%	110 79.7%	138 100.0%
どちらかといえ ば向上した	29 15.7%	156 84.3%	185 100.0%
変わらない	4 13.8%	25 86.2%	29 100.0%
低下した	0 .0%	1 100.0%	1 100.0%
合計	61 17.3%	292 82.7%	353 100.0%

p=.65

表 9 授業を通じた能力向上:外国語と卒業後の社会活動志向のクロス表

	卒業後の社会活動志向		合計
	ある	なし	
授業を通じた能力向上:外国語	16 23.2%	53 76.8%	69 100.0%
どちらかといえ ば向上した	16 15.5%	87 84.5%	103 100.0%
変わらない	17 14.0%	104 86.0%	121 100.0%
低下した	12 20.0%	48 80.0%	60 100.0%
合計	61 17.3%	292 82.7%	353 100.0%

p=.38

以上4つのクロス表の中に、「異文化理解」以外の項目と社会活動意向の間には有意な結果は示されていない。逆に、大学の授業を通じて、異文化理解が向上することはNPO・NGOなど社会活動の参加意志を高めることが言える。

また、違う学科の授業が社会活動志向に与える影響も同じでないと想定できる。そこで学科別と社会活動志向のクロス集計表を取って見る。

表 10 学科と卒業の志向のクロス表（多重選択）

学科		卒業後したいこと	
		社会活動志向	会社志向
学科	社会学	14 21.9%	37 57.8%
	社会福祉学	17 23.9%	34 47.9%
	メディア学（新聞学）	7 13.2%	32 60.4%
	産業関係学	8 15.1%	34 64.2%
	教育文化学（教育学）	15 21.4%	41 58.6%
合計		61	178

分析結果により、社会福祉学科の学生に社会活動志向が他の学科の学生より強いことがわかる。社会福祉士学科の次に社会活動志向が強い学科は、社会学と教育学科である。産業関係学科とメディア学科の人は比較的に社会活動に関心を持ってないと分かる。

#### 8.4 「社会活動に従事したい」と「会社のために働きたい」二つ志向の関係

今、社会活動志向の学生が増えていると言われるが、表10にしては、会社志向（あるいはキャリアアップへの関心が強い）の学生がまた主流となる。では、会社志向と社会活動志向の間にどのような関係が存在しているのか。

表 11 卒業後の会社志向と卒業後の社会活動志向のクロス表

卒業後の会社志向		卒業後の社会活動志向		合計
		ある	なし	
卒業後の会社志向	ある	21 11.8%	157 88.2%	178 100.0%
	なし	40 22.3%	139 77.7%	179 100.0%
合計		61 17.1%	296 82.9%	357 100.0%

p=.008

以上の分析結果から、会社志向の学生には社会活動を同時に志向する者がより少ないことが分かる。

また、学生の個性における、先と同じような項目—感受性を表す美術館や博物館に通った頻度—と会社志向の関係について分析していく。

表 12 学生生活：美術館・博物館へいくと卒業後の会社志向のクロス表

	卒業後の会社志向		合計
	ある	なし	
学生生活：美術館・よくした 博物館へいく	24 41.4%	34 58.6%	58 100.0%
ときどきした	63 45.0%	77 55.0%	140 100.0%
あまりしな かった	57 62.6%	34 37.4%	91 100.0%
しなかった	32 50.0%	32 50.0%	64 100.0%
合計	176 49.9%	177 50.1%	353 100.0%

p=.03

この分析の結果、学生時代に美術館や博物館によく行っていた者ほど「会社のために働きたい」とは考えていないことが分かる。社会活動志向とのクロス表の結果とは正反対の結果が示されたのである。

## 8.5 まとめ

以上の分析結果から、これらを詳しく考察していく。一つ目に分かったことは、学生の社会活動志向には家庭の経済状況からの影響はみられなかったが、家内の文化資本からの影響はみられた。豊富な文化資本を持つ家で育てられた学生はそうでない学生に比べると、社会活動志向が高いことである。

二つ目は学生生活からの影響。まずは学生時代にボランティアに従事するほど卒業後もNPOやNGOで社会活動を続けたい人が多いことがわかった。次は国外旅行の頻度から、世界や自分の生活圏以外のものに好奇心を持っている人には社会活動を志向する者が多いことが分かる。最後に、感受性の豊かな人ほど社会活動志向が強いことが、美術館や博物館に通った頻度と社会活動志向との関係からわかった。

三つ目は大学の授業からの影響である。授業に通じて「異文化理解」能力の向上が社会活動への参加意欲を高める。そして、学科ごとに見ると、社会福祉学科の学生には社会活動志向が強い人が最も多い。

四つ目にわかったことは、卒業後「会社のために働きたい」と「社会活動を志向する」という二つの選択が反比例にしていることである。「社会活動を志向する」学生は会社志向が弱い。そして美術館や博物館に通った頻度からの検証により、感受性の豊かな人ほど社会活動意欲が高い一方で、「会社のために働きたい」など考えていないことがわかった。